令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立花保中学校
校長　村田　雅也

１　学校教育目標

自ら学び向上し合う生徒　　心豊かで協力し合う生徒　　健やかでたくましい生徒

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・向学の精神に満ちた学校 ・礼儀と豊かな心を育む学校 ・夢や志をもち、主体的に自分の進路を切り開く生徒を育む学校
○児童・生徒像	・学ぶ楽しさを知り、主体的に学習に取り組む生徒 ・他人を思いやり、礼儀正しい生徒 ・夢や志をもち、実現に向けて根気強く努力する生徒
○教師像	・生涯を通じて学び続ける意欲のある教師 ・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ・指導力や教科等の専門性を高め、主体的な学びを支援する「伴走者」として邁進する教師 ・保護者や地域、関係諸機関との連携を図り、生徒の健全育成に努める教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

本校の重要課題である「学力向上」は、区学力調査で３教科とも区平均通過率を上回った。学力向上の取組が成果として表れた結果となった。数学は昨年度に引き続き区平均通過率を大きく上回り、本校の学力向上を牽引している。学校生活も落ち着いた雰囲気を保つことができており、落ち着いた環境で学習活動に取り組み、充実した教育活動を展開することができている。

【前年度の成果】

○生徒アンケートによると「学校生活に満足している」の質問に肯定的な回答をした生徒が 88%であった。
○生徒アンケートによると「学校の決まりを守って生活している」の質問に肯定的な回答をした生徒が 89%であった。
○生徒アンケートによると「授業はわかりやすいか」の質問に肯定的な回答が 90%を超えた教科が 6 教科、80%を超えた教科が 2 教科であった。
○生徒アンケートによると「基本的な学習態度が身に付いている」」の質問に肯定的な回答をした生徒が 89%であった。
一年間をかけて取り組んできた成果が表れている。

【前年度の課題】

●家庭学習習慣や主体的に学習に取り組む態度が十分に身に付いていない。
●一人に一台配布されたタブレット端末について、授業における生徒の活用頻度は 37%であった。授業における十分な活用には至っていない。
●協働的な学びや課題解決学習等、コミュニケーション能力を活用した集団的な学びが十分にできていない。
●長引くコロナ禍の影響により、ボランティア・マインドを醸成するボランティア活動ができなかった。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実		○	○	○	○
3	ボランティア・マインドの醸成を中心とした人権尊重教育の充実		○	○	○	○

5　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

A　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
区学力調査の目標値通過率の維持と向上	令和５年度調査 国語 75%、数学 85%、英語 70%	令和５年度調査 国語 75.4%、数学 77.3% 英語 68.8%	3 教科とも区平均を上回る結果となった。数学・英語は達成基準に達しなかったが、数学は、区平均より約 10 ポイント、国語、数学も約５ポイント上回っており、基礎学力の定着の取組が成果にあらわれている。引き続き授業改善を行っていく。	△

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業における生徒のタブレット機器の活用率向上	全学年 実技教科を含む全教科	全学年 全員	全ての授業（学活や総合を含む）で月４回以上活用する。主体的な学びや個別最適な学びに向けた活用を図る。	教員アンケート	12 月末時点で活用率 60%以上	授業における月 4 回以上の活用率は 47%であった。	月に 2～3 回以上を含めると 80%である。教科によって差がある。積極的・効果的な活用を進めていく。	△
2 継続	授業における教員のタブレット・ＩＣＴ機器の活用率向上	全学年 実技教科を含む全教科	全学年 全員	全教員が全ての授業（学活や総合を含む）で活用する。主体的な学びや個別最適な学びに向けた活用を図る。	教員アンケート	12 月末時点で授業でのＩＣＴ活用頻度 80%以上	毎時間、週 1 回以上は 60%、月 2～3 回、月１回以下は、40%であった。	教員の ICT 機器の活用は個人差がある。さらに活用させていく。	◎

3 継続	朝学習における AI ドリル活用	全生徒 英語 数学 国語 理科 社会	火～金曜日 始業前 15 分	【指導体制】担任・国語科・数学科・英語科・社会科・理科 【取り組み内容・ねらい】毎朝、学習内容の復習・確認を行い、基礎学力の定着を図る。	教員アンケート	月に 1 週 AI ドリルを活用	行事等で月に 1 週活用できなった月もあったが、各学年計画に沿って活用できた。	月行事や教科の進度によって実施できない月があった。年度当初に見通しをもって、計画的に実施していく。	△
4 継続	AI ドリルの授業内導入	全学年 ５教科	毎授業	前時の振り返りもしくは本時の振り返りにおいて AI ドリルを活用し学習定着度を確認する。	教員アンケート	12 月末時点で授業での生徒の AI ドリル活用頻度 60%以上	週 1 回以上、月に 2～3 回の活用率は 47%、月 1 回以下が 53%であった。	授業内での生徒の AI ドリル活用率を高めていく。	△
5 継続	放課後補充教室 （熱血！花保塾）	全学年 ５教科	月・火・木・金 15：20 ～16：00	【指導体制】学年教員・５教科の教科担任 【取り組み内容、ねらい】授業中に分からなかったことの質問の場とする。また、朝学確認テスト未実施者や自主学習ノートなどの宿題の未提出者を対象とした指導の場とする。 【使用教材】各教科のノート・プリント・ワーク	課題の完成や分からなかった問題の理解により、達成とする。	生徒の課題の提出率 90%を目指す。	課題提出率は 78%であった。	達成目標 90%には及ばなかったが、放課後補修教室の実施により提出率が向上している。	△
6 継続	夏季補充教室	１・２年 数・英 ３年５教科 各教科で補習の必要な生徒を選出 各学年約 15 名程度	７月２１日～２７日（５日間） 各教科 ５０分	【指導体制】担任・教科担任・学年担当教員・学習支援ボランティア 【取り組み内容、ねらい】当該年度の前半期の内容でつまずきを解消する。教科担任・学年教員・サポートメンバーによって少人数指導を行う。ワークの問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。【使用教材】プリント教材・ワーク等	毎時間、その日の内容の確認テストを実施する。	確認テストで全員 80%の正答率を目指す。	達成目標に達しなかった。	生徒一人一人に学習課題があり、達成できない生徒がいる。	△
7 継続	水曜放課後自習教室	全教科	毎週水曜日	自主的に自学自習に励む習慣を身に付ける場として、NPO 法人カタリバと連携し水曜放課後２時間程度、全学年を対象とした自習教室を開設する。	生徒アンケート	利用した生徒のうち自学自習習慣が身に付いたと回答する生徒が 80%以上	勉強のやり方が身に付いたと肯定的な回答をした生徒は 83%であった。	長期休業日に自習教室を実施した。生徒にとってはカタリバのスタッフとのコミュニケーションの場、学校での居場所にもなっている。	◎

8 継続	小中連携の充実	各教科	全学年 全員	足立スタンダードに基づいた授業の在り方について研鑽を積み、ICT 機器、AI ドリルの活用や課題解決型授業を実施する。	教員アンケート	自己の授業改善に役立ったと回答する教員が 80%以上	自己の授業改善に役立ったと肯定的な回答をした教員は 75%であった。	足立スタンダードに基づいた授業づくり、課題解決型授業の学び合いの学習、ICT 機器を活用した授業の工夫を小中で連携して今後も充実させていく。	○

重点的な取組事項－２	キャリア教育の充実

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の将来についてより明確かつ具体的な目標を定めることで生きることの意味を見出し、前向きな学校生活を送ることができるようにする。	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	肯定的な回答をした生徒は、65%であった。	3年生は、肯定的回答が85%であった。1年生から系統的なキャリア学習を行い、充実を図っていく。	△

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
夢デザインシートの有効活用	生徒アンケートで自己肯定感に関する肯定的評価 80%以上	年間を通じて夢デザインシートを積極的に活用することにより自己のキャリア形成を深める。	年間を通じて活用することができた。	行事等と関連させながら計画的･系統的に活用していく。自己のキャリアを形成し、前向きに生きていくことができる力を育てていく。	○
花保未来ラボ	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	全学年全生徒を対象に職業講話を実施する。多種多様な職業人を講師として招聘し、一人２講座受講。将来の職業選択に向けた足掛かりとする。	地域の方を中心に 16 職種の職業人を講師として招聘し、全生徒を対象に実施した。	開催２回目となり、キャリア教育の一環として定着させていく。	○
体験的協働的活動の充実	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	魚沼自然教室、職業体験、修学旅行、運動会、文化祭などの学校行事に加え、学級活動や各教科の授業においても体験的協働的活動を充実させる。	「学校行事などに積極的に参加している」と肯定的に回答した生徒は 82%であった。	行事は、コロナ禍前にほぼ戻すことができた。生徒が主体となって取組み、生徒自身が成就感を味わうことができる工夫をしていく。	○

重点的な取組事項－３	ボランティア・マインドの醸成を中心とした人権尊重教育の充実

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
特色ある持続可能な取組として「ボランティア活動」を中核に据え、様々な教育活動を通じて人権の尊重を図る。	生徒アンケートによる肯定的評価60%以上 教員アンケートによる肯定的評価80%以上	肯定的に回答した生徒は45%であった。（ボランティア活動） 肯定的に回答した教員は 100%であった。（人権を尊重する態度や心の育成）	ボランティア活動に参加する生徒が限定されている。人権に配慮する指導は継続的に実施していく。	△

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校 2020 レガシーの継続と福祉プロジェクト	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	1 年次車いす体験、2 年次認知症サポーター養成講座、3 年次高齢者声掛け訓練を事前学習 1 時間、体験学習 1 時間で実施する。これらの体験を通じて、障がい者や介護に関する理解を深め、「差別のない社会」や「安心して暮らせる街」づくりへの意識を高める。	各学年計画通り実施できた。 「ボランティア活動に参加した。」と肯定的に回答した生徒は45%であった。	体験活動を通して、障がい者理解や心のバリアフリー、ボランティア活動の参加など、人のために役に立つことをしたいという意識の醸成を図っていく。	△
ポジティブな行動支援の取組	生徒アンケートで自己肯定感について肯定的評価 80%以上	学校独自のポジティブな行動支援の取組を充実させることで、人権に一層配慮した教育活動を展開できるようにする。	「自分には良いところがある」と肯定的な回答をした生徒は58%であった。	生徒がポジティブな行動をするための動機づけが課題である。生徒の意欲を引き出す支援を行っていく。	△
道徳授業の推進	教員アンケートで肯定的評価 80%以上	学年ごとに教員がローテーションで道徳授業を実施し、全ての教員がスキルアップを図るようにする。	「指導方法を工夫した」と肯定的に回答した教員は 100%だった。	今年度、学年ごとに教員がローテーションで道徳の授業を実施した。さらにスキルアップを図っていく。	◎

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

区の学力調査の結果では、昨年度に比べ通過率は３科平均で 0.3%上回り、令和５年度の区３科平均の通過率も上回っている。学力調査の分析から誤答分析を行い、AI ドリルの活用や補充教室等を実施し、学力の定着と向上に向けて丁寧な指導を実施し成果を上げていく。ＩＣＴ機器の活用を一層推進し、生徒がタブレットを活用して意見を共有したり、発表したり、振り返りをして主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行っていく。

キャリア教育では、新型コロナウイルス感染症が感染症法上２類から５類に移行したことから、２年生の職場体験をはじめ、花保未来ラボ（職業人による講話）を実施することができた。次年度以降も生徒が主体的に進路・職業選択ができる機会として学校運営協議会と連携して実施していく。

人権教育については、生徒のボランティア活動が徐々に実施でき、地域に貢献することができた。ボランティア部を中心とした活動になっているので、全校生徒に広めることが課題である。自他ともに大切にする心を、特別の教科道徳等を通じて育てていきたい。

（２）保護者や地域へのメッセージ

コミュニティ・スクールの指定を受けて３年目となりました。今年度は、生徒の居場所づくりとして「hirunoma」・「ビブリオテック」を開室しました。また、野菜作りに加え稲作づくりにチャレンジするなど、学校運営協議会・開かれた学校づくり協議会の方々と連携・協力して、「地域に根差した学校」として歩みを進めています。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上２類から５類に移行し、行事もコロナ禍前にほぼ戻すことができ、学校に活気が戻ってきました。コロナ禍では、ICT 機器を活用した教育が加速し、コロナ禍後も一層進められています。コロナ禍で得た経験を生かし、ただ単にもとに戻すという考えではなく、学校としての役割をしっかりと果たし、生徒の発達を支える教育活動を進めていきます。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

コミュニティ・スクールの強みを生かして、本校の特色ある教育活動を行っていきます。

（３）その他（学校教育活動全般について）

新型コロナウイルス感染の流行から見えてきた学校教育は、学校の情報化とコミュニケーションの大切さです。文房具のように扱えるタブレット端末が現実化してきました。学校教育にも情報化が当たり前になりつつあります。その反面、人と人との結びつきが築けなくなっています。自分の気持ちを相手に伝えること、自分の考えをまとめて表現することが課題として見えてきました。また、運動能力の低下も気になります。体育の授業でけがをする生徒が増えています。「知・徳・体」のバランスが崩れているように思います。目の前の生徒としっかりと対話し、教育活動を行っていくことが大切と考えます。学校は人を育てる場であり、一人一人の可能性を伸ばす場であります。保護者・地域の方と連携してお子様の成長を支援し、教育活動を行っていきたいと思います。